

デンマークから帰国後の交流会から

< 仲間の声 >

2009年10月5日

- * 今回は高齢者福祉で参加したが、子どもたちの様子を見るにつけ、帰ってきて子どもの教育にかかわりたくなってきた。
- * 高齢者の仕事がいやではないが、やりたいことが見つかったらやってみたらよいと思う。自分も出来そうだと思うそんな感じがしてきた。
- * 先輩の例もあるからやりたいことをやってみてはどうか。
- * 夏代さんとの出会いが素晴らしかった。あのエネルギーに圧倒されました。
- * 高齢者が食事をしている様子を見学したかった
- * 日本の福祉は本当に手間隙掛かる、このままでよいのだろうか。
- * デンマークでは集めた税金をどのように使うか国民が分かっている。日本もそのようにしたい、そして20年先30年先を見据えることが出来るのならば素晴らしい、し政治もそのような政策を出して欲しい。
- * やはり教育が大切なような感じがする、日本の教育ももう少しのんびりと、数十年先を意識した教育を。
- * 日本はどこまで国民のことを考えている国なのか分からないし見えない。それを考えてもデンマークは素晴らしい。
- * 報告会を開くたびにみんなが愕然としている、どのようにして先に進める
- * 夏代さんの思いがひしひしと伝わってきて、素晴らしい視察に出会えて超がつくほどラッキーだったと思っている。
- * ベアナドッテゴードンでのターミナルケアを支えるボランティアグループの話も印象的でした。
- * 一口で素晴らしい仲間に出会えた旅だったと思っています。東京にいるときには、行きたいという思いが先行しており、いざデンマークへ行って仲間の皆さんの意識の高さについていけるか心配でした。とにかくとても素晴らしい旅に出会えて感謝しています。
- * 自分は保育のことしか考えてしかいなかったが、デンマークに行って年齢的にも幅広い視察が出来てとても感謝しています。
- * デンマークは福祉にお金をかけている国だと思うが、日本ではどのようにしたらよいか何も出来ずにいる。
- * 自立とはどのようなことか入り口が見えたような気もするが、奥が深くてまとめ切れない。
- * 障がい者施設なども見れると良かったような気もしますが、結構中身の濃い視察であった、
- * デンマークの人は高い税金を払っていても文句が出ないのは、みんなの福祉を皆で支えているという実感があるかだと思う。日本はいつになったらそうなるのだろうか。
- * デンマークの人たちの笑顔がとても素敵だった。余裕かな。
- * デンマークはみんなで支えあう福祉が共有できていてそのことが平等であると実感出来ている。
- * 自分は職場から派遣されて少々ルンルン

- 的な気分であったが、途中からこれではいけないと思い積極的に取り組むように意識を変えた。夏代さんの本も読ませていただき、自分も夏代さんのように生きたいと思うようになってきた。
- * 日本では自分らしく生きることが難しい面もあるが是非デンマークのようになって欲しい。そのことが幸せなんだということに気がついた。
 - * デンマークに行って自分の国のことが分かっていないことにも気がついたし、政治にも関心が向くようになってきたような気がする。
 - * 今回の旅は、誰のために何のために行ってきたのだろう。そのことを考えるようになった。行く前の気持ちとは違って消え入る。
 - * 保護者の皆さんのお話も聞けたらよかったかな。
 - * 自分は参加できて本当にラッキーでした。
 - * 身銭を切っていく人の意気込みを感じた。
 - * 最初は本当に行くんですかという感じでしたが、途中から緊張が走った。どうしようと思ったこともあったが、一生のうちにこんなことはまたとないように思えた。とても充実していて楽しかったです。
 - * 日本の高齢者の事情や一般的な事情があまり良く分かっていないということにも気がつけてラッキーだった。
 - * 日本に帰ってきて興味の幅が広がったような気がします。
 - * 自分に何が出来るかわからないが、何かしなければということに気がついてよかった。
 - * 自分たちの国、日本をどうすればよいのか、どうすれば豊かになるのか、少し気がついたような気がした。
 - * 何事も継続することの大切かを感じたし、そのような仲間にも出会えたことに感謝しています。
 - * 子育てに参加したが自分の老後考えるきっかけともなった。
 - * どのような状況になっても安心して生活できる国デンマーク素晴らしかった。そこへ意識の高い仲間と出会えて本当に良かったです。
 - * 英語を話したいと思うようになれた。
 - * 日頃全くお付き合いのない方々と出会えて語り合えて本当に良かった。
 - * 日本人は忙しすぎるように思う。
 - * 普通の旅行ではなかったのととてもよかった。
 - * 朝の散歩が良かった。
 - * デンマークと日本では空気の色合いが違う感じがした。
 - * 風呂とシャワーの違いを感じた視察だった
 - * この9日間はゆったりとした日々が過ぎてとてもよかった。日本とデンマークは時の流れ方が違うように感じた。日本はめまぐるしすぎる。
 - * 学ぶことが多かった研修であった。
 - * 食事は日本食が一番だと思った。
 - * 子どもや高齢者者の施設をいくつも訪問させていただいたが、あらためてデンマークという国は豊かだなと思った。
 - * 日本の高齢者福祉は日々の介護・介護に追われていて本当はどうすることが介護なのか考える暇もないような感じがする。
 - * 人は人をどこまで、見ていていくのかという考え方を学びたいと思った。
 - * どこまでも生かすことが本当の介護なのか考えさせられた。
 - * 学生が給料をもらいながら学んでいることは素晴らしかった。また少人数で学びあうすがたも考えさせられた。
 - * 小さいときから職業に触れる遊び、学びがある教育は日本でも必要だと思った。

- * デンマークの保育に比べて日本の保育は管理が中心になっている。子ども中心ではなく保育者が中心になっているのでは。
- * デンマークの保育はどうすれば子どもが幸せになれるかを考えている。
- * 管理ばかりでは伸びやかな子どもは育たないと実感した。
- * 日本の保育園の良いところは何だろうと考えるようになった。そのことについても考えるようになった。
- * 食事はやはり日本が一番かなと思った。
- * 環境の豊かさに驚かされた。日本はどうしたら良いかな。
- * 自分も含めてどうすれば意識改革が出来るか、何をどうすればよいか、考えねば。
- * デンマークの子どもたちが胸に手を当て国歌を歌ったときには感動した。
- * 自分の知識を高めるためにデンマークの旅に参加したが、みっちりした内容で帰ってくることができ少し自身がついた。
- * 朝の散歩では周りの様子が見えてきてよかった。
- * 「死を待つ人たちをケア」の考え方には感動した。日本でも考えてみる必要があるように思う。

<コラム>

～デンマークエネルギー政策とは？～

ゴミからエネルギーをつくるバイオマス・プラント。デンマークは、循環型社会をつくるために、廃棄物問題とエネルギー問題を結び付けて考えてきました。家庭からのゴミや農業・林業からの廃棄物などの有機廃棄物は、「バイオマス」と呼ばれてエネルギー源として利用されています。今日、デンマークは、焼却炉、下水処理場、ゴミ処理場などからエネルギーを取り出す技術で世界の最先端を走るまでになっています。農業廃棄物や家畜の糞尿からバイオガスを生成するシステムは、循環型の農業を実現する重要なカギとなります。環境に負荷を与える有機廃棄物を最終処分場へ送る代わりに、バイオマス・プラントに送って再生可能なエネルギーに変え、さらにその残りは再び肥料として農家に戻すのです。また、バイオガス・プラントは、医療廃棄物を分解して無害化することもできます。これは、医療・医薬産業から出される発ガン性の廃棄物に関しても同じです。ユトランド半島の中中部にある環境先進地帯グリーンベルトは、風力発電の故郷であり、デンマークの風力タービンの4分の3が集まっており、その多くは農家の共同出資によって建てられています。また世界最大の風力発電量を供給するヴェスタス社の本拠地があります。ここにある世界最大級のバイオガス・プラントでは、農業廃棄物だけでなく、下水処理場の汚泥、医療廃棄物や食肉処理場からの廃棄物、乳業、水産業などからの様々な廃棄物を処理して地域住民に熱と電力を供給しています。また世界最大のバイオガスの試験場があり、廃棄物だけでなくビーツ、牧草などあらゆる種類のバイオマスをエネルギーに変え電力と熱として使用しています。